

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（店長）	・12月末で省エネ家電のエコポイント制度が期限切れとなるため、年末はテレビの需要が更に加速する。問題はメーカーの生産量であり、今年3月のように供給が足りない状況になれば、悪影響が大きい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、宴会共に前年を上回る予約率で推移している。宴会部門では会議の予約が減少しているものの、宴会予約は好調である。宿泊部門も単価こそ伸びていないが、予約率は前年を上回っている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・9、10月は各種の集客イベントも多く開催されるため、猛暑が落ち着いて涼しくなってくれば来客数も増える。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・猛暑が一段落すれば、客足が戻るほか、生ものも売れ始める。
		一般小売店〔菓子〕（経営者）	・今夏のような異常気象でなければ、通常の売上に回復する。
		スーパー（社員）	・春以降、売上の回復している店舗が確実に増えており、特に品質の良い高額商品の動きが良くなっている。この傾向は景気に左右されず、しばらくの間は続く。
		コンビニ（店長）	・厳しい残暑で9、10月は高い気温が続くため、前年の売上はクリアできる。また、たばこの値上げもあるため、今後3か月については売上が一時的に増加する。
		家電量販店（経営者）	・省エネ家電のエコポイント制度が12月に終了するため、年末は駆け込み需要で一時的に良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・近隣の新築マンションで入居が始まるため、多少は来客数が増える。ただし、今年は残暑が厳しいため、どの程度増えるかは不透明である。
		スナック（経営者）	・月末になって客足が少し出てきた。今月は最悪であったため、少しはましになる。
		通信会社（社員）	・来年には地上デジタル放送が始まるため、年末にかけて売上増につながる。
		パチンコ店（店員）	・季節的に少し落ち着くほか、夏のイベントによる成果が出てくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・まだまだ暑さが続くため、秋物商材の売上が悪化するほか、先行き不透明感が消費マインドに悪影響を与える。
		商店街（代表者）	・猛暑の影響で人出が少ないほか、客単価も低いいため、先行きの見通しも明るくない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・9月は初秋物の動く時期であるが、売行きについては不透明である。ここまで何とか生き残ってきたアパレル業界であるが、この暑さとどう戦えばよいか分からない。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・景気回復の材料が見当たらない。異常気象で生鮮品の単価が上がれば、衣食住に限らず買い控えが起きる。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・株安、円高で先行き不安が一層高まっており、年末までは特に冷え込む気配がある。今夏は猛暑の恩恵を受けた業種もあったが、これから数か月は非常に不透明な状況となる。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・町の商店では依然として販売量が増えず、低迷が続いているなど、明るい兆しが全くない。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・客の様子が明るいまま推移すればよいが、先行きには不安要素が多い。
		百貨店（売場主任）	・円高、株安の影響で、特に高額品の購買意欲に水が差される。
		百貨店（売場主任）	・大きく顧客数が増えるわけではないため、競合相手が減るなどの環境が改善しない限り、状況が大きく変わることはない。
		百貨店（企画担当）	・今後も残暑が続くため、季節衣料が動かない。
		百貨店（企画担当）	・世界的な経済の低迷に加え、不安定な政治、株価の低迷、円高の進行といったマイナス材料が当分消えないため、非常に厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・高額品を購入する一部の顧客の動きは今後も変わらない。ただし、富裕客であっても、必要に迫られない宝飾品や美術品などの買い控えは更に進む。
		百貨店（婦人服担当）	・販売量は回復しつつあるが、残暑が厳しく秋物商戦に支障が出ているため、今後2、3か月は厳しい状況となる。
百貨店（サービス担当）	・今後、来客数の増加策を導入するほか、物産展の開催で前年の売上確保を進める。また、新しい商業施設のオープンによる集客効果も出てくる。		

百貨店（店長）	・今月は猛暑にもかかわらず、食料品をはじめとする売上は前年並みとなった。ただし、政治不安のほか、株価や為替の先行きも不透明なため、今後も今の状態がしばらく続く。
百貨店（売場担当）	・ボリュウム商品では、季節を先取りした動きはまだ増えていないものの、ジャストシーズンの商品は価格に見合った高付加価値品もよく売れるなど、価格の低下に歯止めが掛かりつつある。ただし、株価の上昇は難しいため、高額品の売行きは低迷する。
スーパー（経営者）	・今後は価格競争が一段と激しくなる。
スーパー（経営者）	・来客数は維持できているが、単価の下落に歯止めが掛からない。食料品がこの様子では、景気の回復感が出てくるのはまだ先である。
スーパー（経営者）	・秋口は気温が高めで推移する予想もあり、1品単価の下落も考えられる。季節商材の動きが悪くなれば、客単価も上がらない。また、円高の長期化で近隣の工場では工員数を減らすなど、客の所得環境も悪化が進む。円高還元セールを行っても需要を押し上げるほどではないため、最近の単価高からデフレ傾向に逆戻りすることもある。
スーパー（店長）	・来客数の減少は、競合店の出店による影響が大きい。毎年、出店と閉店が繰り返され、徐々に飽和状態になりつつあるため、見通しは厳しい。
スーパー（店長）	・売上の下げ止まった感はあるが、上向く要因もはっきりとは見当たらないため、しばらくは横ばいで推移する。
スーパー（店長）	・猛暑や各種補助金による追い風がなくなり、今後は一度落ち着くか、下降トレンドに入る。株安や円高、政治不安などにより、9、10月は厳しい月となる。
スーパー（企画担当）	・為替や食料油、小麦相場の変動はあるが、店舗全体への影響はあまりない。また、経営環境に与える影響の大きな競合の状況についても、大きくは変わらない。
スーパー（経理担当）	・残暑による悪影響が懸念されるものの、おでんや鍋物商材が動き出す兆しもあり、売上は比較的底堅く推移する。
スーパー（広報担当）	・厳しい残暑が予想されるため、秋冬物の売行きは悪化する。ただし、従来の低価格戦略だけでなく、年金支給日の販促や円高還元セール、訳ありセールなど、工夫した販売促進が客の来店動機につながりつつあるため、以前ほどの停滞感はない。
スーパー（管理担当）	・消費の上向く材料が見当たらない。
スーパー（販売担当）	・客の様子をみていると、チラシが出るたびに買い回りを行うため、今後も厳しい状況となる。
スーパー（企画）	・今の好調は気温の影響が大きいため、秋になれば販売状況も大きく変わる。また、政治の混迷が続いており、全体的に明るい兆しはないため、景気が本格回復するまでにはまだ時間が掛かる。
コンビニ（店員）	・半額コーナーの商品を求めて来店するなど、客の財布のひもが固くなっているため、今後も厳しい状況となる。
家電量販店（店員）	・消費者の間では政治に対する不安があるため、見通しとしては厳しい。
乗用車販売店（経営者）	・例年、年末に向かって人や物の動きが良くなる。今年も円高による輸入価格の低下が大きな要因となり、今後は良くなっていく。
乗用車販売店（販売担当）	・大幅に悪くなる感はないが、最近の円高、株安に加えて政治不安もあるため、年明け以降も良くなることはない。
その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候不順が心配であるが、現状の水準は維持できる。
一般レストラン（経営者）	・外食では低価格メニューにのみ動きが出てきているが、環境自体が更に好転することはない。また、消費マインドも不安定な状況が続く。
一般レストラン（経営者）	・食品を中心にした物価の上昇により、客の財布のひもが更に固くなる。
一般レストラン（経理担当）	・政治に対する不安や景気後退の懸念により、人出がますます悪くなっている。予約も少ないなど、先行きには明るい話題が少ない。
観光型ホテル（経営者）	・今月の売上は例年並みであったが、猛暑で光熱費が増加したほか、機械の相次ぐ故障で経費が増え、利益が圧迫されている。今後は涼しくなるにつれて冷暖房費は減るが、婚礼シーズンで修繕費が増えてくるため、全体として良くなるとは言えない。
観光型旅館（経営者）	・平城遷都1300年祭のイベントに客足が取られており、客の流れが悪くなっているため、今後も厳しい状況となる。

観光型旅館（団体役員）	・宿泊単価は底を打ったものの、予約の動きが遅いため、今後も大きな変化はない。
都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門は円高による外国人観光客の減少が懸念されるものの、平城遷都1300年祭の終了を前に個人客の動きは悪くない。ただし、法人による会議や宴会の予約状況は芳しくない。
都市型ホテル（営業担当）	・客室稼働率は伸びつつあるが、客室単価の値下げが常態化しており、売上は上がってこない。特に7月からは厳しくなってきた。一般宴会も前月と同様に動きが止まっており、回復の兆しが見当たらない。
旅行代理店（店長）	・先行きには明るい話題が少ない。
旅行代理店（広報担当）	・今年は前年のような5連休がないため、9月の受注状況はかなり悪い。円高の影響で10、11月の欧州方面の予約は好調であるが、国内旅行の予約は減少している。
タクシー運転手	・依然として良くなる要素が見当たらないため、当分の間は現状のままである。
タクシー会社（経営者）	・外食を控える動きがかなり定着し、夜の食事や酒の付き合いも減っているため、夕方以降のタクシー利用は今後も増えない。昼間の利用も今のままで、公共交通機関の電車やバスが主に利用される。
通信会社（経営者）	・通信事業者の上期決算は厳しくなる予想であり、代理店への手数料が削減される動きもある。また、12月までは大きな需要を喚起するような材料も見当たらない。
通信会社（企画担当）	・好転する材料が見当たらない。
テーマパーク（職員）	・過ごしやすい季節になれば観光などの外出は増えるものの、今夏の落ち込みをどの程度取り戻せるかは不透明である。今の景気動向では前年以上の結果にはなりにくい。
観光名所（経理担当）	・今年の夏は本当に酷暑そのもので、耐え難い暑さとなっている。当地も涼を求めて訪れる場所ではないほか、今年のお盆は曜日の巡りも悪かったため、来客数は前年比で減少している。ガラスの製作体験教室は前年よりも参加者が増えているものの、飲食、物販店は落ち込んでいる。今月の売上は前年比で5%減となっており、このまま残暑が続けば悪影響が尾を引く。
美容室（経営者）	・今月は猛暑で昼間はなかなか客が来なかった。その反動で9～10月は集中的に良くなるものの、11月は再び減少する。
美容室（店員）	・売上は平均的な水準で安定して推移しているため、下半期に入っても特に変わらない。
その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージは服を脱ぐため、毎年暑くなると客が増える。今年は一向に増える気配がなかったため、冬にかけても悪い状況が続く。
その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタルの価格競争がなくなる限り、売上が前年を上回ることはない。
住宅販売会社（経営者）	・不動産市場では供給過多になる可能性も払しょくできない。
住宅販売会社（従業員）	・国内景気が停滞し、先行き不安が強まっているため、先行きの見通しは厳しい。
住宅販売会社（従業員）	・マンション契約率は好調に推移しているが、賃貸オフィスは企業業績の悪化に伴い苦戦が続くため、不動産市況が全体的に悪くなる。それに伴い、住宅購入意欲も大きく伸びることはない。
住宅販売会社（総務担当）	・住宅版エコポイントの期間延長や、住宅ローン金利の優遇措置の延長など、客の間で買い得感が続けば良い方向に向かう。ただし、今は現状維持が精一杯である。
その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関の融資姿勢によるが、業界全体に大きな変化はない。ただし、円高が止まらなければ景気全体は後退する。
その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅版エコポイントの期間延長が検討されるなど、住宅需要の伸びる要素が出てきたものの、所得の増加がなければ全体的には厳しい。
やや悪くなる	
一般小売店〔時計〕（経営者）	・客からは相変わらず年金の話題が多く、将来や老後に対する不安が大きくなっている。大学生の客からもアルバイトがないといった話が多く、客の間に余裕がなくなっているため、先行きはやや悪くなる。
一般小売店〔衣服〕（経営者）	・残暑が厳しくなるため、秋物衣料の売行きに悪影響が出る。

一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・9月もまだ残暑が続く予想であり、秋物が売れるとは考えられないほか、今冬の気候もどうなるか分からないため、これから秋冬にかけて衣料品は厳しい状況に陥る。
百貨店(売場主任)	・夏物商品は好調であるが、その反動で秋物衣料の出足が鈍いなど、秋冬商材の定価品は需要のサイクルが狂ってきている。さらに、株安や円高の影響で高額品の買い控えが進む可能性もある。百貨店の売上回復は外部要因にかかっているが、その大きな要素である景気動向や気候要因に不安がある。
百貨店(売場主任)	・株安や円高、政治への不安感から、個人消費の回復は進まない。また、今年は暖冬が予想されるため、秋冬物の動きも低調なものとなる。
百貨店(商品担当)	・これから多くの企業で雇用調整が進む。月収の減少も進んでおり、周囲では割増退職金を目的とした退職への応募も増えている。
百貨店(マネージャー)	・円高、株安の傾向が今後好転する兆しはない。企業の海外資産価値が目減りし、外貨建て資産の為替差損も拡大するため、消費マインドや企業の設備投資などにもマイナスの影響が出る。
スーパー(店長)	・猛暑特需は8月で終わり、9月以降は政治不信や円高、株安などの不安材料があるため、消費者の購買意欲は高まらない。
スーパー(店長)	・衣料品や住居関連の秋物商材を展開しているが、厳しい残暑であり動きがない。今年は秋物商戦が従来よりも短くなりそうで、夏物商戦が終わるとすぐに冬物商戦に入るため、衣料品が特に苦戦を強いられる。
コンビニ(経営者)	・近隣のオフィスビルでは中小企業の移転、撤退が更に進んでおり、その後の入居予定もないため、当店への来客数は減少する。弁当類も価格の低下が続いているため、客単価も更に低下が進む。
コンビニ(店長)	・10月のたばこの値上げ前にまとめ買いが増えるため、9月の売上は相当伸びるが、10月以降はその反動でかなり落ち込む。
コンビニ(広告担当)	・たばこの増税でまとめ買いが増えるものの、それも一時的な動きであり、増税をきっかけに禁煙や節煙が増える。それに伴い、ついで買いの多かった缶コーヒーなどの売上が落ち込む。
コンビニ(店員)	・たばこの値上げが行われる10月以降は、たばこを買いに来る客が減少する。
衣料品専門店(経営者)	・客は既に洋服を持っているため、流行が変わらない限り、売上が大きく伸びることはない。
衣料品専門店(営業・販売担当)	・給料やボーナスが減少したという声が多いため、先行きはやや悪くなる。
衣料品専門店(販売担当)	・今期に入ってから悪い状態が続いており、自社の新卒採用を見送るといった客もいる。
乗用車販売店(経営者)	・エコカー補助金が終了すると、新車の販売台数も少なくなる。実際に9月以降は新車購入の予約状況が悪い。
乗用車販売店(営業担当)	・エコカー補助金は延長しないが、市場ではそれに代わる対策が検討されているとの声がよく聞かれる。いずれにしても、期間の限られた対策では効果も一時的なものにとどまる。
住関連専門店(店長)	・円高や政治不信が消費を更に鈍らせる。社会の先行きに明るい兆しがあり、それが持続しなければ、一度根づいた節約志向を変えることは難しい。
住関連専門店(店員)	・このまま気温の下がる時期が遅れるようであれば、季節商品の購入時期が大きくずれる。例年の売上ピーク時期にも巻き返しが間に合わない。
その他専門店〔スポーツ用品〕(経理担当)	・残暑が続けば、秋冬物への移行が遅れるため、見通しは厳しい。
一般レストラン(スタッフ)	・夏休みに出費が増えた分、9月以降は節約が始まり、外食に出掛ける人が減る。
一般レストラン(店員)	・円高による直接の打撃というよりも、円高による不安感が日常の消費を悪化させる。
その他飲食〔ジャズバー〕(店員)	・たばこの増税を含め、日本の政治がどの方向へ行こうとしているかが分からない。先行きが不透明で不安な状況である。
観光型ホテル(経営者)	・今の景気の状態から判断すると、平城遷都1300年祭のイベントが終われば悪くなる。

		観光型ホテル（経営者）	・今月はインターネット予約である程度の個人客を確保できたが、9月以降は激減するほか、団体客もここへきて例年よりも動きがかなり悪くなっている。
		都市型ホテル（支配人）	・急激に円高、株安が進んでいるなど、先行きの見込みはあまり良くない。
		都市型ホテル（総務担当）	・円高やエコカー補助金の期限切れにより、景気の更なる悪化が進む。
		旅行代理店（経営者）	・海外旅行にとって円高はプラス材料であるが、株安で景況感の悪化する影響が必ず出てくる。特に、国内旅行の落ち込みにつながる。
		観光名所（経理担当）	・春先からしばらくは順調に回復していたが、猛暑と高速道路料金の一部無料化もあり、今夏の来客数は前年を下回っている。また、園内の商業施設では客の財布のひもが一層固くなっており、売上も低下しているなど、先行きの見通しは厳しい。
		競輪場（職員）	・売上の回復につながるような情報もないなど、明るい兆しはない。
		その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・9、10月は人気アイドルグループのコンサートがあるため、来客数の増加につながる。ただし、プロ野球シーズンが終了する10月以降は、企業イベントが主となるため来客数は減少する。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・円高で海外からの観光客の動きにブレーキが掛かるほか、株価低迷で国内の行楽マインドも低下する。
		その他住宅 [情報誌] （編集者）	・輸出関連企業の業績下振れリスクが高まるなか、消費者の間でも生活防衛意識が強まり、消費の減少が進む。
	悪くなる	商店街（代表者）	・気候や円高、政治不安などの影響で、個人や企業の動きが悪くなっているため、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店 [花]（店長）	・円高、株安の影響で先行きは不透明となっており、今後も食料品を含めた買い控えが進む。
		一般小売店 [雑貨] （店長）	・たばこの値上げが10月に実施されれば、更なる売上の落ち込みは避けられない。
		スーパー（店員）	・2、3か月で景気が良くなることはない。
		コンビニ（経営者）	・近隣に競合店がオープンするほか、移動販売車が日替わり弁当の販売を始めたため、先行きは悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・円高のほか、既存の景気対策の終了、与党の公約が未実行であることなどが不安定要素となり、消費者の財布のひもが固くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が9月で期限を迎えるため、その後は厳しい状況となる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金がなくなり、新車の買い控えが始まる。中古車も現時点では動きがないなど、今後期待できるような好材料がない。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金も終了するため、これからは本当に厳しくなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の期限を前に受注を先取りしているため、しばらくはその反動で悪くなる。
		その他専門店 [宝飾品] （販売担当）	・円高によって旅行やブランド品の購入は増えても、宝飾品にまで恩恵が及ぶかどうかは分からない。販売価格の低下で多少売れたとしても、コストが同じように低下していなければ、利益は出ない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊では、9月から月間千人を超える大口法人の利用が格安ホテルへ流出するため、大幅なマイナスとなる。宴会でも大型の会合が軒並み縮小となるなど、明るい見通しが全く立たない。
		通信会社（店長）	・円高の影響が懸念される。このまま対応が遅れれば先行きの状況は悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（従業員）	・徐々に気候も穏やかになり、食品の売上も多少は良くなる。ただし、政治問題や円高といった悪いニュースも多く、最低限必要な商品以外は買い控えられるほか、需要が低額商品にシフトする。消費は多少増えるものの、価格競争が一層厳しくなるため、全体的には多少良くなる程度である。
		木材木製品製造業（経営者）	・今年中は業績の芳しくない状況が続くと予想されるものの、新規事業の動向次第ではかなり改善する。
		電気機械器具製造業 （営業担当）	・少しずつではあるが受注が増えているため、先行きはやや良くなる。
		電気機械器具製造業 （企画担当）	・新製品の受注量がどの程度増えるかであるが、いずれにしても先行きはやや良くなる。

	建設業（経営者）	・今後も円高が続くようであれば、海外の不動産ファンドによる購入意欲の低下につながるものの、先行きはやや良くなる。
	広告代理店（営業担当）	・実感としてはまだ弱いものの、紙媒体、Web媒体共に広告量が増えつつあるため、先行きの動きはやや良くなる。
	その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・営業部門の担当者との会話から、今後はやや良くなる感がある。
変わらない	家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・受注量に変化がないため、今後も現在の状況が続く。
	化学工業（経営者）	・マスコミの報道による影響もあり、いつも同業他社からは先行きへの不安の声が聞かれる。将来に対する展望を持っている企業が少ない。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・3～6か月先は、受注、販売量共に大きく落ち込むことになる。
	金属製品製造業（総務担当）	・受注価格、売上共に、まだまだ厳しい状況が続く。
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量を見る限り、ここ数か月と同じような状況が続く。
	電気機械器具製造業（経営者）	・最近ではインフラ関連で設備投資の動きが増えているものの、なかなか受注が決まらないなど、不透明感が高まっている。
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・エコポイント制度の延長など、消費刺激策による荷動きは見込まれるが、根本的な景気回復が進むわけではない。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・円高が続けば、今後どのような影響が出るのか分からない。
	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・百貨店などの売上に改善がみられないため、今後も厳しい状況が続く。
	建設業（経営者）	・どの業界も同じであるが、価格競争が厳しく、仕事があっても利益にはつながりにくい。
	輸送業（営業所長）	・物流費の削減に関する話が増えており、見通しとしては厳しい。荷主から直接依頼された案件であれば様々な工夫もできるが、間に仲介業者が入る場合は単価も低く、話が進みにくい。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・底打ち感はあるものの、上向く気配が全くない。
	広告代理店（営業担当）	・現状は、一部を除いて広告出稿に積極的な業種が見当たらない。
	経営コンサルタント	・円高、株安といった状況にあるため、顧客企業の業績は現状維持か、もしくは悪化する。
	司法書士	・不動産は相変わらず動いていないほか、法人の設立や増資といった案件もない。好材料が見当たらないため、しばらくは現状のまま推移する。
	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・先行きは不透明であり、見通しとしては良くない。
やや悪くなる	繊維工業（団体職員）	・綿糸価格の高騰分が販売価格に十分転嫁できないため、採算の悪化につながる。
	繊維工業（総務担当）	・集客のための企画やアイデア次第で、催事の良し悪しが決まる。良い商品を提案するだけでなく、販売力がなければ売上を伸ばすことができない。今後は取引先へ出掛けることも増えるため、経費の増加につながる。
	繊維工業（総務担当）	・エコカー補助金の期限が近づいており、景気が二番底に陥る懸念も現実味を帯びてきている。靴下といえども、先行き不安で消費者が財布のひもを固くし始める。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・円高の影響を受ける顧客からの受注減や値下げ要求が増える。
	化学工業（企画担当）	・一部の原料価格で高騰が続いており、ほかの原料にも波及する可能性が高いため、先行きの見通しは厳しい。
	金属製品製造業（経営者）	・極端な円高で企業が現地調達を進めるため、今まで輸出が支えてきた景気を維持できなくなる。
	金属製品製造業（管理担当）	・円高、株安の影響で、企業の設備投資が後回しになるため、製品が売れなくなる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・国内の商談がなかなか盛り上がりせず、円高や株安の影響で取引先の大手企業も弱気になっている。当社も円高で利益率が低下しているため、今後しばらくは厳しい状況となる。
電気機械器具製造業（企画担当）	・秋に向かって中小規模のマンションの完成が少なく、戸建住宅の販売も少なくなるため、業況は悪化に向かう。	

		建設業（営業担当）	・建設市場の縮小により、受注量の確保のために合理化のあてもなく値下げ受注を行う企業が目立つ。生コンクリート業界でストライキの起こった背景にも、これらの事情が影響している。当面は上向き気配もない。
		輸送業（営業担当）	・大手メーカーの海外生産が増えた影響で、中小企業の工場では荷物量の減少が相次いでいるため、先行きの見通しは厳しい。
		金融業（支店長）	・急激な円高がこれ以上続くと、企業全体の動きが非常に悪くなる。不動産関連の取引先でも、今後はサラリーマンや事業者による購入は見込めない。
		広告代理店（営業担当）	・9、10月は特に大きな販促の動きがないほか、残暑が長引く予報も出ているため、見通しは厳しい。
		経営コンサルタント	・エコポイント制度の効果は既に小さくなっているほか、期限前の駆け込み需要も少ない。さらに、円高に対する政府の対応の遅れにより、景気の悪化につながる。
		コピーサービス業（従業員）	・厳しい残暑により、しばらくは家電量販店や居酒屋からのポスター作成依頼が続く。一方、今春から好調であった教育関連の生徒募集のダイレクトメールは徐々に下火となっている。ダイレクトメール自体の効果が無かったのか、政治への不安で子ども手当の支給効果が薄れたのかは判断が難しい。
	悪くなる	化学工業（管理担当）	・今期の想定為替レートは1ドル90円であるが、予想以上の円高が進んでいるほか、米国経済の先行き不安で輸出量も減少する。また、エコカー補助金も9月で終了するため、先行きは悪くなる。
		金属製品製造業（営業担当）	・円高と鋼材値上げの影響で輸出が伸びなくなっている。この状況が続けば、年末には仕事がなくなる。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・円高、株安で不安定な状態が続くほか、政治も不安定なままであるため、先行きの見通しは厳しい。
		通信業（管理担当）	・政府、日銀の対応次第では、最悪の状況になることもあり得る。
		不動産業（営業担当）	・当地域向けの荷物が減少し、海運業者の撤退にもつながっているなど、オフィス需要については今後も悪化が続く。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・求人が増えているため、先行きはやや良くなる。ただし、日雇労働者が生活保護へ大量に緊急避難しているため、労働者不足が顕著となる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・景気の持ち直しで派遣求人の増加に期待していたが、急激な円高により若干慎重にならざるを得ない。正社員求人が減る分、派遣求人が若干増える期待はあるものの、大きく伸びることはない。
		人材派遣会社（支店長）	・円高などの不安要素はあるものの、しばらくは求人数が大幅に減少することはない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・回復の動きが全く感じられず、今後2～3か月の広告受注は前年比で85%程度となっている。
		職業安定所（職員）	・求人の増加傾向が鈍化しつつあるため、見通しは厳しい。求人内容も製造業など一部の業種を除き、パートが中心となっている。先行き不透明感により、正規雇用、新規卒といった長期雇用を手控え、非正規社員やパート採用で求人確保を図る傾向が強まっている。
		職業安定所（職員）	・雇用保険の適用事業者数や被保険者数は徐々に増加している。ただし、ここ数か月は新規求人数や新規求職者数、就職件数は横ばいで推移しており、急激に回復することはない。
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金やエコポイント制度の終了、円高などで、事業所からは先行きが非常に不安といった声が多い。このところ続いていた求人増の動きにも、今後は悪影響が出てくる。
		民間職業紹介機関（支社長）	・下半期に不透明感を抱いている企業も多いが、新規求人が減ってきているわけではない。これまでの採用抑制の反動や、今後注力する分野への人材投入といったプラスの要素に対し、円高による様子見や欧米の景気減速への警戒といったマイナスの要素が引っ張り合う状態がしばらく続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（役員）	・政府による経済政策の方針が不明確で、市場が疑いの目を向けているため、円高、株安に歯止めが掛からない。これらによる経済への悪影響が、今後は様々な形で出てくる。
人材派遣会社（支店長）		・急激な円高、株安により、先行きは不透明となっている。	
新聞社〔求人広告〕（管理担当）		・依然として有効な雇用対策が実行されていない。また今後は、急速な円高の進行で輸出が低迷するため、景気の悪化が進む。	

	職業安定所（職員）	・円高、株安による影響で、輸出企業が大変厳しい状況となる。
	職業安定所（職員）	・円高の影響で企業の収益が悪化し始める。また、個人消費も落ち込むため、雇用情勢は今後厳しくなる。
	学校 [大学]（就職担当）	・円高の影響が出始めており、企業からは悲観的な声が多く聞かれる。
悪くなる	新聞社 [求人広告]（営業担当）	・経済対策の効果が関西の各企業に浸透するまでには時間が掛かる。個々の企業の状況も異なるため、全体の底上げには思い切った政策が必要となる。